

移民問題

フィリピン人権国際委員会 (ICHRP) 総会と フィリピン人権国際会議 (ICPRP)

弁護士 長谷川 弥生

1 概要

2016年7月21日から24日まで、(International Conference for Human Rights in the Philippines、以下「ICHRP」という。)の総会と、ICHRPによる国際会議(以下「ICPRP」という。)に参加しました。会場は、デュテルテ大統領の出身地であるミンダナオ・ダバオ市内で、町中にデュテルテ大統領をたたえるポスターや横断幕などが掲げられていました。一方で町には武装した警察官があふれ、物々しい雰囲気もありました。会議の参加者数は300人を超え、フィリピンの現地NGOの他に、EUやアメリカから大代表团、アジアからも韓国、香港、インドネシア、マレーシアなど多くの国が参加していたのが印象的でした。日本からは、青法協議長の原弁護士、京浜ユニオンの迫田さん、ミгранテインターナショナル名古屋支部のロサーナさんと私の4人が参加しました。



2 ICHRP総会

ICHRPのメンバーはみな、壇上にあがると迫力のある演説をされます。また演説の終わりには、一人の掛け声に合わせて会場みんなが一定のリズムにのったスローガンの掛け声をかけ合います。さまざまな種類の掛け声があり驚くとともに、会場の団結を感じました。みなとにかくよく食べ、休憩時間もよくしゃべります。しかしなごやかな雰囲気とは裏腹に、深刻な人権問題についての報告や議論が行われました。外資系企業や地主などによる搾取、不安定な雇用システム、移民が受ける人権侵害、先住民の迫害、10年以上にも及ぶ超法規的殺人や強制失踪、などです。とりわけ、会議が開催されたミンダナオ島ではいままさにルマド民族が、鉱山開発のために先祖代々の土地を追われ収容施設に収容されており、ルマド民族の問題に注目した会議でした。会議の始まった数日前にも、会議場近くで二人のルマド民族の活動家が集会後の帰宅途中に何者かにより殺害されるという痛ましい事件が起こり、そのような事件は日常的に発生しているとのことでした。

た。デュテルテ政権のジュディ・タギワヨ社会福祉開発大臣 (写真中央) も会議に参加されていて、気さくに話しかけてくださいました。



3 ICPRP

1日目に全体会、2日目には分科会が行われました。分科会は9つに分かれており、私はNUPL主催の分科会に参加しました。フィリピン固有の問題として、現在インドネシアで問題になっているジェーン・ヴェロッソ事件、船乗りとしての出稼ぎにまつわる深刻な人権侵害、ほかにも他国における同様の移民問題、また、フィリピンに限らず移民問題への法での対処に限界があること、



等についての報告がありました。私はJALISAとNUPLの共同で取り組んでいる移民問題について、JALISAのインターンとして来日しているブッチさんを中心とした日本での取り組みについて報告しました。受入国における法律家や支援者と協力して移民問題に取り組むことは有益で重要な事業である、と評価を受けました。

4 日本支部の活動について

帰国後の2016年8月22日、今後3年間のICHRP日本の活動について、ブッチさんと協議しました。ちょうどフィリピン政府とフィリピン共産党がノルウェイのオスロにて和平会議が開始された日でした (写真)。ICHRP日本では、ブログやフェイスブックを通じての情報発信からはじめて声明を出したり勉強会を開催したりしたいと思っています。いまのところ会員数は少ないですが、ご興味のある方はぜひJALISAまでお問合せください。

